

# エネルギー環境教育ジャーナル

1994/7

Vol.5-No.1

エネルギー環境教育情報センター

小学校

社会・理科

## 実践事例

### 内 容

- 【社会】 地球の一員としての国際協力 .....P2
- 【理科】 酸性雨から身近な環境影響を考える .....P4
- 【特別活動】 郷土を知り、郷土の自然と人々を愛し、  
自然に親しむ活動 .....P6

### 子どもと一緒に疑問を考える



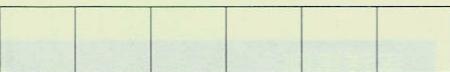
ジャーナリスト 野中ともよ

私は留学中に、日本の大学とアメリカの大学との大きな違いを感じた。アメリカの学生は、自分の将来を考えて今何をすべきかを見つけ実行しているのに対し、日本の学生は社会に出る前の猶予期間と認識しているように思われた。おしゃれして、シャネルのバッグを持って、ゼミ合宿よ！という日本の学生に比べ、アメリカの学生はおしゃれもしない。暇があれば図書館に通う。そうしなければ授業についていけないのがアメリカの学生の現状である。

日本で今、企業はどのような人材を求めているのだろうか。いわゆる一流校を出た人に固執する企業は、4社のうち1社だけ。でも、両親は子供たちを良い仕事に就かせるためには、一流校を卒業しなければならないと考えて、時間があるなら英単語を1個覚えなさいと、おしりをたたく。子供たちが世に出る頃の時は、もう親のモノサシでは計れない時代です。電話の時代が来るのに、よい飛脚になるために足をきたえさせているようなもの。とても、おろかしく、もったいないことだと思います。

初等中等教育の中で、先生はこの時代に児童・生徒に伝えておくべきことは何かをしっかりと見つめたうえ

で教育にあたってほしいですね。例えば、小学生の時にネズミにタバコを吸わせるとこんなに恐ろしい症状（ガン）ができるのだと伝えれば、タバコを吸う人は激減すると思います。ナイーブで透明な心への刺激。とても責任のある分、やりがいもあると思います。例えば、エネルギーと言えば、電力だ原子力だと言い、また、環境と言えば公害だ酸性雨だ水だというのではなくて、もっと大きな目でみて子供たちに楽しみながら、マークを持たせることを是非お願いしたい。例えば、地球はどうして回っているのだろう。その上で地球上には60億近い人間や200万種類の生き物が住んでいる。不思議だね～。木だって目も鼻もないのにどうやって生きているのかな。でも木は光合成といって太陽の光を浴びながら二酸化炭素を吸い酸素を作っているんだよ。自分を取り巻く社会・環境・世界について疑問を持つことが大切で、先生もその疑問に対し一緒に考えてゆく指導をして欲しいですね。そうすることできちんとしたエネルギー環境問題を考えることを素直に受け入れられるのではないかでしょうか。学校教育の中では、社会で政治のしくみ、理科で発芽を教えるだけでなく、宇宙全体に比べればちっぽけな太陽系の中の地球をごく僅かな限られた時間で生きている中で、生きることの素晴らしさや、「かけがえのない命は、世界中で一つであり、どんなハイテク工場があってもあなたと同じ人間はできないのだよ。」と教えてほしい。そのうえで、自分自身の生き方を考える指導をしていただきたい。どのような先生と出会えたかが、子供の人生にとってかなり大きな影響を与えることはまちがいないことですから。



# エネルギー環境教育ジャーナル

1994/7 Vol.5-No.1

エネルギー環境教育情報センター

## 内 容

### (理科 第1分野)

「科学技術の進歩と人間生活」の授業構成…………P2

### (技術・家庭科)

技術・家庭科におけるエネルギー環境教育…………P5

中学校

理科・技術家庭

## 実践事例

### 視 点

#### 子どもと一緒に 疑問を考える

ジャーナリスト 野中ともよ



私は留学中に、日本の大学とアメリカの大学との大きな違いを感じた。アメリカの学生は、自分の将来を考えて今何をすべきかを見つけ実行しているのに対し、日本の学生は社会に出る前の猶予期間と認識しているように思われた。おしゃれして、シャネルのバッグを持って、ゼミ合宿よ！という日本の学生に比べ、アメリカの学生はおしゃれもしない。暇があれば図書館に通う。そうしなければ授業についていけないのがアメリカの学生の現状である。

今、日本の企業はどのような人材を求めているのだろうか。いわゆる一流校を出た人に固執する企業は、4社のうち1社だけ。でも、両親は子供たちを良い仕事に就かせるためには、一流校を卒業しなければならないと考えて、時間があるなら英単語を1個覚えなさいとおしりをたたく。子供たちが世にでる頃は、もう親のモノサシでは計れない時代である。電話の時代が来るのに、よい飛脚になるために足をきたえさせているようなもの。とてもおろかしく、もったいないことだと思う。

先生方には、この時代に児童・生徒に伝えておくべきことは何かをしっかりと見つめたうえで、教育にあたることを望みたい。例えば、小学生の時に、ネズミにタバコを吸わせるとこんなに恐ろしい症状（ガン）ができるのだと伝えれば、タバコを吸う人は激減すると思う。ナープで透明な心への刺激。

とても責任がある分、やりがいもあると思う。たとえばエネルギーと言えば、電力だ原子力だと言い、環境と言えば公害だ酸性雨だ水だというのではなくて、もっと大きな目でみて、子供たちに楽しみながら“？”マークを持たせることをぜひお願いしたい。

たとえば、地球はどうして回っているのだろう。その中で地球には60億近い人間や200万種類の生き物が住んでいる。不思議だね～。木だって目も鼻もないのにどうやって生きているのかな。でも植物は光合成といって太陽の光を浴びながら二酸化炭素を吸い酸素を作っているんだというように、自分を取り巻く社会・環境・世界について疑問を持つことが大切で、先生もその疑問に対し一緒に考えていく指導をして欲しい。そうすることでエネルギー環境について考えることを素直に受け入れられるのではないだろうか。

社会科で政治のしくみを理科で発芽を教えるだけでなく、宇宙全体に比べればちっぽけな太陽系の中の地球、その中でごく僅かな限られた時間を生きることの素晴らしさ、そして「かけがえのない命は世界中で一つであり、どんなハイテク工場があってもあなたと同じ人間はできないのだよ」ということを考えさせるべきであろう。どのような先生と出会えたかが、子供の人生にとって大きな影響を与えることは間違いないだろう。

#### ●プロフィル／のなか・ともよ

東京都生まれ。上智大学大学院博士課程前期卒。米ミズーリ大学大学院留学より帰国後、79年よりNHKで国際番組やスポーツ番組などのキャスターを務める。87年から中京女子大学客員教授。92年10月からテレビ東京「ワールドビジネスサテライト」キャスターとして活躍中。4歳のお嬢さんのよき母親でもある。